地質標本館　第4回および第5回 地質写真コンテスト結果について（1）

宮内　渉[1)]・青木正博[1)]

1. はじめに

地質標本館では，2002 年度に第 1 回の地質写真コンテストを開催し，その後 2004 年 3 月（第 2 回），2005 年 3 月（第 3 回），2007 年 3 月（第 4 回），2009 年 3 月（第 5 回）に，地質写真コンテストを開催してきました．このうち，第 3 回の地質写真コンテストまでは「地質ニュース」誌上で報告してきましたが（地質ニュース no. 585（2003 年 5 月号），no. 598（2004 年 6 月号），no. 618（2006 年 2 月号）参照），第 4 回および第 5 回の地質写真コンテストについては未報告のままでしたので，遅くなりましたがこの場を借りて報告させていただきます．

各回の作品は，2007 年 3 月 13 日（火）～ 2007 年 4 月 1 日（日）（第 4 回）と，2009 年 3 月 3 日（火）～ 2009 年 4 月 5 日（日）（第 5 回）の期間，地質標本館ロビーに展示されました．作品の応募は産業技術総合研究所職員や OB など関係者に呼びかけたところ，それぞれ 114 点と 109 点もの力作が寄せられました．作品は「地質現象」,「調査風景」,「地質標本」,「組写真」の 4 つのカテゴリーに分け，それぞれのコーナーを設けて，カテゴリーごとに展示されました（写真 1）．

2. 作品の審査と表彰

展示期間中に，青木（当時，地質標本館長）をはじめとする審査委員 3 名により，カテゴリーごとに，地質現象を捉える視点とタイミングの的確さ，地質標本をいかに立体的に情報量豊かに見せているか，地質調査・観測内容と担当する職員の活躍ぶりを捉えているか，などを評価の基準とした審査が行われ，第 4 回ではグランプリ作品 1 点，入選作品 13 点，特別賞作品 1 点と，期間中の地質標本館入館者による投票で選ばれた入館者賞作品 5 点が選出されました．第 5 回ではグランプリ作品 1 点，入選作品 7 点，入館者賞作品 5 点に加え，地質標本館のイベントに参加

写真1　第5回地質写真コンテスト展示風景．4つのカテゴリー別に展示した一部の様子です．

1）産総研 地質標本館

キーワード：地質標本館，地質写真コンテスト，地質現象，調査風景，地質標本，組写真

第1表　第4回地質写真コンテスト受賞作品一覧（1）.

	氏名	題名	テーマ・カテゴリー	撮影場所	撮影年月日	カメラ名	フィルム名・画素数	写真の説明
グランプリ	宍倉　正展（まさのぶ）	巨大地震が生んだ南の島の不思議な景色	組写真（地質現象）	インド・アンダマン諸島南東部	2006/3/18	Nikon D70	630万画素	(a) 地震で死にゆくココナッツ 2004年スマトラ島沖地震（M9.3）では，津波の被害のほかに，地盤の沈降による浸水被害が生じた．インド・アンダマン諸島南東部では，最大1mの沈降が記録され，沿岸の家屋や田畑には海水が浸入した．写真はココナッツ林が浸水によって枯れ，朽ちて行っている様子である．
					2006/12/26	Olympus u725SW	700万画素	(b) 水浸しのココナッツ 2004年スマトラ島沖地震に伴う沈降で浸水したインド・アンダマン諸島南東部のココナッツ林である．こちらは塩水の浸入を防いでいるので，まだ完全に枯れていないが，徐々に朽ちていく運命である．
				インド・アンダマン諸島北西部ノースリーフ島	2006/3/16	Nikon D70	630万画素	(c) 地震で干上がったサンゴ礁　その1 2004年スマトラ島沖地震では，地盤が沈降した場所がある一方で，逆に地盤が大きく隆起した場所もある．インド・アンダマン諸島北西部のノースリーフ島と呼ばれる無人島は，島の周囲に美しいサンゴ礁が発達していたが，地盤が一気に隆起したため，全て干上がってしまった．本来，ダイビングをしなければ見られないサンゴが，こうしてほぼ生息した状態のまま露出している様子は，滅多に見ることが出来ない不思議な現象と言える．
					2005/3/22	Nikon D70	630万画素	(d) 地震で干上がったサンゴ礁　その2 2004年スマトラ島沖地震に伴う隆起で干上がったインド・アンダマン諸島北西部ノースリーフ島のサンゴ礁である．こちらは特にマイクロアトールと呼ばれるハマサンゴの仲間が形成した円形の群体が観察される．マイクロアトールはその頂面が低潮位を示すことから，このように干上がった個体の高度から，地殻変動の量を知ることができる．調査の結果，およそ1.3mの隆起が確認された．
入選	佐藤　努	生命の息吹	調査風景	三宅島	2005/6/29	Optio43WR	400万画素	三宅島の山頂，雄山へと続く道は，2000年の噴火の影響で草木がすべて枯れてしまった．降りそそぐ噴石と，大量の硫黄を含む火山灰により，一面が死の森と化したのである．現在でも火口から有毒の火山ガスが噴出しているため，調査の際にはガスマスクと防災無線が欠かせない．そんな過酷な環境の中に，新たな生命の息吹を発見した．きのこである．三宅島の自然は，再生への道のりを確実に歩んでいる．
入選	大和田道子	ガイド犬見習い中？	組写真（調査風景）	北海道足寄郡足寄町　雌阿寒岳	2005/7/1	ミノルタ DiMAGE Xt	2048x1536	雌阿寒岳96-1火口付近での噴煙観測を監督中(?)の“野中モコ”．野中温泉の看板犬の一匹です(a)．登山客と毎日のように登り，ガイド犬見習い中(?)．帰り道では我々を引率してもらいました(b)．2006年の噴火以降は登れなかったようですが，入山規制も解除され，また元気に登山しているに違いありません．
入選	松浦　浩久	海緑石砂岩の顕微鏡写真	地質標本	福岡県大牟田市勝立	2005/2/17	Nikon COOLPIX 4500	4MP　2.89MB Adobe Photoshop Album 2.0 Mini による補正画像	写真は九州三池炭田の万田層群勝立層に含まれる海緑石砂岩の顕微鏡写真である．海緑石はほかのモノトーンの砂粒に比べると際だって美しい鮮緑色を呈している．海緑石には塊状均質のものと，層状に見えるものがある．砂粒には石英・長石・雲母など鉱物質のものと，凝灰岩などの岩片を含む．また海緑石砂岩には有孔虫や貝化石も含まれている（薄片の横幅約2mm）．
入選	大和田道子	雪が積もった訳では・・・	組写真（地質現象）	長野県北佐久郡軽井沢町	(a, b) 2004/9/16 (c) 2004/10/28	ミノルタ DiMAGE Xt	2048x1536	2004年9月16日の連続噴火では大量の火山灰を軽井沢町内に降らせました．誰もいないテニスコートはまるで雪が積もったかのよう．しかし，1ヶ月後には元通り．それでもやっぱり噴煙は変わらずたなびいています． (a) フラッシュ撮影，(b) フラッシュなし撮影，(c) フラッシュなし撮影
入選	下司　信夫	大地のパッチワーク	地質現象	神奈川県三浦市剣崎付近	2001/9/25			三浦半島の地形は下末吉海進期に作られた平坦面とその後の海面低下によって刻まれた複雑に入り組んだ谷からなる．台地上の平坦面は厚い関東ローム層に覆われ，三浦大根をはじめとする畑作が盛んである．入り組んだ浸食谷に規制されたさまざまな形の畑がパッチワーク模様をみせる．
入選	石塚　吉浩	復興への第一歩	地質現象	有珠山北西山麓洞爺湖温泉街	2000年6月	NIKON NEWFM2	フジRDPⅡ（Provia100F）	有珠2000年噴火の降灰上に色づいたチューリップは，復興への第一歩をすでに記していた．噴火活動は終息に向かい，住民帰宅がこの後始まった．

したことのある小学生などから，この回に初めて応募を受け付け，その作品の中から 4 点の奨励賞作品も選出されました．受賞された方々には，地質標本館ロビーで行われた表彰式において賞状が授与されました．

本号の口絵 129–131 頁で紹介したのは，第 4 回のグランプリ作品と入選作品 6 点です．写真の説明など詳細は第 1 表のとおりです．今回紹介できなかった受賞作品は，今後，本誌の口絵において順次紹介する予定です．

3. 入館者のアンケートから

期間中の入館者に，入館者賞の投票とあわせてアンケートを実施し，第 5 回の地質写真コンテストにおいては 67 名の方にお答えいただきました．このうち 49 名の方に「おもしろい」とご回答いただき，おおむね好評であったと思われます．以下に，地質写真コンテストについていただいたご意見・ご感想の一部を紹介します．

- 調査風景や地質現象の写真がとても興味深かった．標本写真のコメントも大変良かった．
- いろいろな種類のものがあって，とてもおもしろかったです．
- 紙でなくて，人に説明してほしい．本を読んでいるようで少しつかれた．人と自然の調和をとった1枚が見たい．
- 世界地図，日本地図でその写真の地点を示すと良いかもしれません．
- 調査風景などふだん知りえない世界をみることができ興味深かった．楽しい企画なのでもう少し広く宣伝されてはどうでしょうか．
- とてもよいプランです．続けて下さい．

また，地質標本館についても貴重なご意見・ご感想をいただきました．今後の地質写真コンテストや地質標本館の運営に反映していきたいと思います．

4. おわりに

本報告は「地質ニュース」誌上で行う予定でしたが，諸々の事情で掲載準備が遅れたこと，また「地質ニュース」誌が 2011 年 3 月号で発行休止になってしまったことにより，このたびの報告となりました．関係者の皆様には，報告が遅れましたことをお詫びいたします．

誌面の都合上，受賞作品を複数回に分けて紹介させていただきます．次回以降の受賞作品紹介を楽しみにお待ちいただければ幸いです．

MIYAUCHI Wataru and AOKI Masahiro（2012）Result report of the 4th and the 5th Geological Photograph Contests (1).

（受付：2012年3月16日）